

平成27年度 妙高市教育研究会社会科部 活動報告

部長 岡田 和則

1 研究主題 地域に根差した授業改善 ～地域素材の教材化を通して～

2 研究の概要

- ・授業に生かせる地域素材を発掘し、「素材」を「教材」に高める教材開発を行う。
- ・追究意欲を育む学習過程の在り方を探る。(資料、発問・指示、学び合い)

3 研究の実際

(1) 授業に生かせる地域素材：指導案作成ワークショップ

今後の「副読本活用の手引き」作成に向けて指導事例を蓄積していくため、指導案作成をワークショップ形式で行い、合わせて授業力向上の一助となるような研修の機会を設定した。

① 期日 8月20日(木) ② 参加者 13名

③ 研修方法

- ・副読本「わたしたちの妙高市」を用い、グループでどの単元を取り上げるか決定する。
- ・各自が、自分なりの「本時案」を作成する。
- ・自分の指導案の「作成のポイント」について、メンバーにアピールする。
- ・大洋紙に、グループで相談しながら、最もよい指導案を作成する。
- ・全員の前で、グループの指導案を発表する。

(2) 追究意欲を育む学習過程：授業研究会

① 期日 11月10日(火) ② 参加者 16名

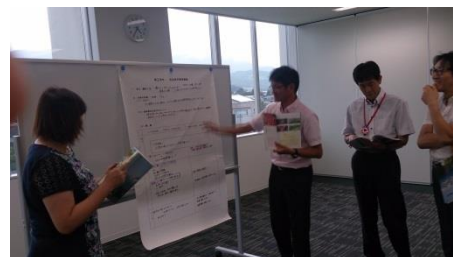
③ 単元名 6年社会「15年続いた戦争と人々の暮らし」

④ 授業者 新井小学校 堀川 和人 教諭

⑤ 授業の実際

初めに、戦前～戦中～戦後の新井小学校の児童数の変化のグラフを提示した。昭和19年に急激に児童数が増加している様子に疑問を持たせ、「新井小学校に学童疎開してきた子どもたちの生活について調べよう」という学習課題を設定した。「ふるさと新井のあゆみ」という6年～中学生向け歴史副読本を活用したことで、「戦争は遠い世界のもの」ではなく「身近なところで起こった」ことを実感させることができた。そして、「なぜ戦争が起こったか」「戦争はどのようにして行われたのか」「人々の暮らしはどうだったか」などの学習問題が設定され、その後の調べ学習へとつなげていくことができた。

協議会では、「資料の妥当性」「学習課題の提示」「子ども同士の学び合い」「発問・指示」について、授業者からの説明及び質疑応答を行った。その後「ふるさとに根差した授業改善」をテーマに、ワークショップで授業改善の視点を話し合った。



4 成果と課題

指導案作成ワークショップでは、様々な教材観・指導観の中で、より良い指導案を練り上げることにより、授業スタイルの幅を広げることにつながった。また授業研究会では、地域素材の活用で、戦争が「自分たちとつながっている」ことを意識させ、追究意欲につながった。

今後はこれらの成果を蓄積し、副読本がどの教師にも使いやすくなるよう「副読本活用の手引き」作成に取り組み、より良い授業への一助にしたい。